



舞緋蓮 ～三幕目始まり～

<舞台 及び 物語 概要>

刀郷を騒がせた要人暗殺組織『麻羅』。
その壊滅に端を発し、坂本春花に誘われ
人斬人形と言われたユイキは、獅士堂一家に加わり、
坂本雪絵となった。
本作は、後に獅士堂一家頭梁となる雪絵の、
新たに始まった組での生活と、その渦中での出逢いの数々、
そして見い出す想いとを追った物語です。

<時代年表>

- | | | |
|-------|---|-----------------|
| 1945年 | 西方・日本政府、平和裏に戦争終結
寺崎内務次官、活動 | |
| 1957年 | 雪絵（当時ユイキ）と春花の出逢い
暗殺組織「麻羅」活動
雪絵11歳（推定） | （第2作、一始まりの雪の日ー） |
| 1958年 | 獅士堂一家の組員として生活。
武俠としていろはを学ぶ。
雪絵12歳（推定） | （本作） |
| 1959年 | 雪絵、二十六代目襲名 | |
| 1965年 | 雪絵、辰ノ神勇刀と決刀 | |
| 1966年 | 千夏、獅士堂を攻撃。雪絵と対決
雪絵、20歳 | （第1作、一刀郷武俠譚ー） |

<登場人物紹介>

○坂本雪絵 さかもとゆきえ

物語の主人公。長い黒髪の刀遣い。

1958年本作冒頭では12歳くらいと思われる。

獅士堂一家に加わり、武俠としてのいろはを学ぶ。

幼いながらも、組内でも抜きん出た冴えを見せる刀技の遣い手。

○織田左馬ノ介 おださまのすけ

雪絵と共に麻羅を抜け、獅士堂一家に加わった。

雪絵の良き理解者にして補佐役。

前作で自らの師が課した任務が半ば終了したのに伴って、

本来の名を名乗る。

○坂本春花 さかもとはるか

刀郷の西の総元締め、獅士堂一家の第二十五代頭梁。

見た目は男の眼を奪う麗人であり、朗らかで魅力的な女性。

しかし獅士堂一家にあっては、歴代二位の在位歴を誇る強者。

雪絵を娘として組に迎え、彼女を見守り育てる。

○清家仁美 さやかひとみ

刀郷と日本本土、西方のパイプ役を務める任侠一家の一人娘。

清家の組は、前作では刀郷に這入る寺崎外務官の護衛の役を

春花たちに依頼していた。

○白峰 しらみね

獅士堂一家において、春花を補佐し、守護する大幹部「四聖」の一角。
春香の前の代から四聖を務めている、弟子も多い重鎮。
春香の先輩にあたり、昔から彼女の言動に対して苦勞している向きがある。
雪絵が組に来てからは、彼女のお目付け役、相談役ともなる。

○黒原 くろはら

白峰の愛弟子のひとりの、若い武俠。
どこかニヒルで愛想が悪い。しかし亡くなった友を想う面もある。
意外とノリが悪くなく、いたずらの片棒を担いだりも。
友を失う切っ掛けになった組織に所属していた雪絵に対して、
敵対心を以って突っ掛るように接する。

○寺崎悠一郎 てらさきゆういちろう

西方の外交官。
戦時中から刀郷と西方の関係良好化に努めた男の実孫。
初めて訪れた刀郷で、坂本春花と出逢う。
三十代ながら独り身で、いまいち女性に強くないところがある。
1958年現在は、西方と刀郷を行き来するが、
一家に贈り物をしたり、
春花とはプライベートに逢って話す関係を静かに続けている模様。

and more...

今回の第三幕の連載は、短編連作形式で、数章になります。
ページ数が多いので、
毎月 10日、20日、30日（月末の場合も）の、
月3回の更新となります。

どうぞ、よろしくお願い致します。

【サンプル号】 舞緋蓮 ーウテナと晤の果てにー

<http://p.booklog.jp/book/98480>

著者：刀史郎

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hiironoshishi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/98480>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/98480>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ